

(No.708. 2023.4.1)

カトリック田園調布教会報

☎03(3721)7271

〒145-0071 東京都大田区田園調布3-43-1

急いで行って、告げなさい

主任司祭 ドミニコ竹内正美神父

皆様、ご復活おめでとうございます。
弟子たちは、なすすべもなく、主が十字架にかかってしまったことで、虚脱状態のうちに泣き過ごしたに違いありません。

やがて夜が明け、朝が来ます。何が起ったのか弟子たちはまだ知りません。しかし、墓についた時、入り口を閉じていた重い石が除かれていたように、マグダラのマリヤたちの重い悲しみが取り除かれます。

「恐れることはありません。あなた方は十字架につけられたイエスを探しているのでしょうか、ここにはおられません。かねて言われていたとおり復活されたのです。
(マタイ 28, 5-6)

婦人たちは恐れながらも大喜びで急いで墓を立ち去り、弟子たちに知らせるために走

って行きました。もう悲しみも嘆きもありません。喜びが胸いっぱい張り裂けんばかりです。不安や悲しみや恐れをもちたらず墓、生命の喜びに向かって走り出します。

人間の不安と恐れの原因である死と罪は、イエス様の復活によって打ち破られました。「死は勝利に飲まれた。死よ、お前の勝利はどこにあるのか。死よ、お前のとげは何処にあるのか」(コリント 15, 55)。

ご復活は、神様のものである命の決定的勝利です。私たちは既に死が終わりでないことを知りました。イエス様が自ら復活してそれを保証してくれたからです。

「急いで行って、弟子たちに告げなさい」
(マタイ 28, 7)。
希望や喜びは個人の中の心に秘められてい

るだけではなくて、何時も人々と分かち合うものです。復活の喜びと力が弟子たちに満ち溢れた時、彼らは地の果てまで出てゆきました。

私たちも復活の証人として、受けた喜びと力と希望とを、急いで行って人々に伝えたいものです。



司祭団からのメッセージ

主の御復活

アウグストヌス桑田拓治神父

主の復活おめでとございます。

コロナ禍の三年を経て規制のない日常が戻りつつあります。しかし、この三年間で色々な影響が教会生活に出ているように思います。勉強会、教会学校、中高生会、典礼における聖歌、地区集会などあげればきりが無いほどです。

ミサ典書の改定に伴いミサ曲も変わっています。これらのことに丁寧に検討を重ね、田園調布教会としての対応を決めていく必要があります。今年是小教区活動の再起動の年となるのではないのでしょうか。

二〇〇七年から十五年間、助任司祭を努めて、管区長として田園調布教会を離れる

事になり、この大事な年に皆様と共に歩むことが出来ない事を心苦しく思っています。しかし、田園調布共同体なら必ず以前にも増して豊かな教会活動を取り戻すことが出来ると思っております。

たまに（もしかして頻回に）田園調布教会には顔を出すと思えますので宜しくお願います。

復活されたイエスとの再会

アントニオ金東炫神父

「あの方は、かねてあなたがたに言われたとおり、ガリラヤでお会いできる」
(マルコ16,7)

私たちが自由にするイエスの光に照らされて迎えた二〇二三年の主のご復活、おめでとうございます。主の復活という驚くべ

き出来事は、私たちの信仰の核心であり、私たちに新たな希望と力を与えてくれます。

い出し、今復活され、私たちと共におられるイエスに気付くことです。

福音書が伝えているイエス・キリストの復活の経緯は、イエスが死からよみがえり、エルサレムの婦人たちにご自身をあらわされる場面から始まります。

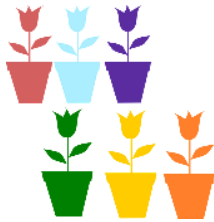
復活されたイエスとの再会は私たち自らの力によるのではなく、神の賜物(エフエソ 2:8)であって、信仰の実り、信仰生活による結果と言えます。

そして復活されたイエスは、「行って、わたしの兄弟たちにガリラヤへ行くように言いなさい」(マタイ 28:10)と言われました。

イエスの復活の神秘に結ばれることは私たちを完全な者とするための神のみわざであることを深く黙想し、この驚くべき喜びを共に祝いたいと思います。

それは、弟子たちがイエスに出会った最初の場所へ戻るようにという命令で、新しい出会いも新しい始まりも、すべてがそこから始まることを示しています。弟子たちはイエスから話かけられた信仰の原点に戻り、再び信仰に生きる力を受けます。

このように私たちと復活されたイエスとの再会は、初めてイエスと出会った信仰の原点に戻って行くことです。すなわち、イエスと出会った最初の時を思



二十歳のつどい2023

イグナチオ ロヨラ K・I

一月八日、新成人をお祝いする「二十歳のつどい」のミサが行われました。主任司祭に祝福していただいた十一名の

新成人はそれぞれ抱負を述べ、ミサに与った信徒の皆さんから大きな拍手を受けました。まだコロナ禍であり、祝賀会ができなかったことは残念でした。

教会委員会 K・Y



一月八日の二十歳のつどいに参加させていただきましたK・Iです。竹内神父様をはじめ、会のためにご尽力下さったすべての方々に心より感謝申し上げます。

クリスマスに小さき花の幼稚園児向けミサに時々お邪魔することはありましたが、長い間、田園調布教会には行っていませんので、正直「二十歳のつどいに僕が行ってもいいのかな」と気後れしてしまうところもありました。

当日は懐かしい場所で懐かしい方々に迎えられるお祝いしていただき、とても温かい気持ちになりました。小さき花の幼稚園時代の同期たちに久しぶりに会えたことが何より嬉しかったです。

私は小学校、中学・高校まで横浜市のカトリックの学校に通っていました。その時の友人に誘われて、今は横浜山手教会の鈴

木神父様ご指導のもと、横浜教区学生連合という主に大学生を中心とした活動に参加しています。横浜教区といっても網羅する範囲は広く、静岡、長野、山梨も管轄区域に含まれます。

月に一度ほど集まって和気あいあいとした雰囲気のある会ですが、この会があったからこそ出会えた仲間もいて、この与えてもらった出会いをこれからも大事にしていきたいと思っています。

これまで様々な人にお世話になりながら私は二十歳という節目の歳を迎えることができました。そして、小さい頃通ったこの田園調布教会で大人の門出を祝っていただきました。これから成人として様々なことを経験すると思いますが、またひとつ「帰って来られる場所」ができたような気がしています。

そして今度は自分が他の人のために働く番がくるでしょう。その時のために、今まで

自分が受けた恩を忘れず自分らしく歩んできたと思います。



マグダレナ・ソフィア・バラ R・T

（祝福のお恵みをいただいて）

コロナ禍において教会の様々な活動が制限されている中でも、「二十歳のつどい」という節目の会を設けていただけたことに

感謝いたします。

私自身カトリック田園調布教会には幼い頃から通い、成人を迎えた今日までの間、本当にたくさんの方々に見守り、支えていただけてきました。教会学校の友達やリーダーの皆さんとお勉強をしたり、キャンプに出掛けたりと、学校とはまた違った環境で勉強すること、遊ぶことに夢中だった小学生。

中高生会の活動に参加し、田園調布教会だけではなく他教会の方々との関わりを通して、人と人との繋がりを感じ教会がより大好きになった中高生。環境が大きく変わり不安だった新生活の中で、自分にとって「教会」は今までとは変わらず安心できる場所だと、改めて実感した大学生。

私の人生の様々なストーリーが詰まった、そして私にとっての第二の家であるようなこの教会で成人を迎えることができ、とても幸せです。これまで私に関わってくださった全ての方に感謝いたします。

今までカトリック田園調布教会で過ごしてきた中で、教会学校のリーダーとしての活動は特に印象深く、思い入れのあるものです。私自身が生徒として教会学校に関わっていた時に憧れの存在であった「リーダー」として、今自分たちが子ども達に何ができるかを考え、一から企画することは、時に困難に直面することもあります。

しかし、子ども達の笑顔を見ることができた時に感じる達成感は、きっとこの先も私に自信を与えてくれるものと信じています。

幼い頃に教会をより好きにさせて下さったリーダー方のように、子ども達にとっての道標のような存在になっていけたらと思います。成人を迎え今までの感謝を伝えると共に、信徒のひとりとしてより良い教会・共同体を創っていけるよう今後も励んでまいります。

お告げのマリア M・M

目黒教会で幼児洗礼を受けた私が田園調布教会に転入したのは、高齢の祖父母と同居するためにこちらに引越してきた折、幼稚園の年中の頃だった。

小学校入学と同時に教会学校にも入った。引越後も幼稚園は転園しなかったため、教会学校の新生の中で、私は人生初の「アウェー感」を感じていた。

教会学校では、みんなで勉強会をした後にお遊びの時間が設けられている。内気な私は、周囲に馴染むことが苦手だった。でも、なぜか「教会に行きたくない」「教会学校には通いたくない」とは一度も思わなかった。

いつの間にか学校でも教会でも新しいお友達ができ、リーダーたちとも仲良しになり、サポーターさんと神父様にお世話になって、夏休みのワンデーフェスタやサマーキャンプ、クリスマス会など、たくさんの

楽しい思い出を重ねていくことができた。

高校生になり、教会学校の卒業生である幼馴染たちと一緒に今度は教会学校のリーダーになることができた。大学二年生になり、学生の自分やサークル活動、アルバイトなどに勤しむ一方で、教会学校のリーダーであることは私に不可欠な時間となっている。

今でも私は、教会学校の遊ぶ時間を自分事として考えている。そして、そこに昔の私の影を見つけた時には、笑って声をかけるのだ。「うんうん。わかるわかる。心配ないよ。一緒に行こう！」と。

私は教会と学校と家族という、三つの居場所に支えられて成長することができた。

どの居場所も私にとっては不可分で、いわば三位一体だ。教会では、私はリーダーや神父様、ブラザーたち、サポーターさんたちに支えられてきた。「アウェー感」から「居場所」になった教会。二十歳のつどいを祝

うミサで信徒の方々を振り返ったとき、「私はここで育ったのだ」という、えも言われぬ安心感に包まれた。今、リーダーになった私は、誰かのことを支えられているのだろうか。

成人を祝うミサの中で、教会委員長さんと教会委員さんの任命式があった。成人を祝うミサを挙げてくださった神父様方、準備してくださった共同体の皆様深く感謝申し上げますとともに、私も仲間と一緒に、共同体の一員としてイエス様に従っていきたいと決意を新たにしている。



多摩川生活困窮者支援の会

TAMAちゃんについて



アウトリーチ担当 本多 響

二〇二三年八月より、生活困窮者という隣人に寄り添うことを目的として、主に丸子橋から二子玉川までの生活困窮者約二十五名に毎月お弁当を作り、うち約十食を田園調布教会のメンバーが、約十五食を中原教会パトロールの会メンバーが配布をしています。

生活困窮者の方々は、いずれも過酷な環境で生活をされています。栄養価の高い弁当の献立、歯が悪い方でも食べられるような柔らかい調理など、生活困窮者の方からフィードバックを頂きながら、可能な限り

寄り添えるような工夫をしつつ、各位の健康状態をお聞きし、政府からの支援金を希望される場合には、ご協力いただいている司法書士の方にもご同行いただき、可能な限りの機会を提供してきています。



生活困窮者の皆様は、それぞれの事情を抱えながら生活をされており、過去に生活保護を申請しようとしても、「人間として扱ってくれなかった」といったご経験をされた方もおり、なかなか打ち解けるのには時間を要しますが、毎月の支援を通じ、最初は警戒をしていた方が笑顔で迎えてくれたり、過去の不幸な出来事等の身の上話をしてくれたり、一部の方々からは何か読むものがないかとのリクエストをいただき、聖書と典礼をお渡しすることもあります。

TAMAちゃんの会は、約二十五名のメンバー、約十名弱の支援者の方々の寄付、及び募金とで成り立っており、二月には信徒の方々よりも募金の支援をいただきました。

この場をお借りしてお礼申し上げます。

ホームレスという怖いイメージをされる方も多いかもしれませんが、初めてアウトリーチに参加された方のフィードバックを共有致します。

「初めてアウトリーチ(現場に物資を運び、生活困窮者と向き合い、対話をする事)に行ったが、相手を尊重し、接することの重要性を改めて痛感した。またアウトリーチに参加したいと思った」等



この活動への関与の方法は様々です。調理を通じた関わり、アウトリーチを通じた関わり、そして支援を通じた関わりです。ご興味をお持ちの方がいらっしゃいましたら、福祉委員会までお問合せを頂けると幸いです。

これからも皆様の温かいご支援のもと活動していきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

カトリック松江教会

文・写真 柳沢洋子

旅をするには色々な動機や機会があると思います。長い間温めていた計画もありますが、突然に機会が訪れることもあります。

昨年はそろそろ待降節、と言う時期に、コロナ禍で延長手続きを繰り返していた飛行機のマイルージ、国内旅行分程度が最終有効期限をむかえると通知があり、どこへ行くか迷いました。

北へ行くには寒い、近すぎては飛行機の意味が無い、そこで思いついたのが松江でした。

高校二年の時、学校の旅行で一週間かけて山陰を巡ったことがあり、五十年ぶりに松江だけでも再訪してみようと思いたちました。東京の高校が旅行で山陰とは珍しいと言われるのですが、大人になってからいざ自分では中々選ばない所を巡った（連れて行ってもらった）のは今となってはあり

がたかったと友人達とも言っています。（当時はその有難みを分かっていたいなかったおバカな高校生たちでした。）

今は先生方も亡くなり、学校が何故、山陰を選んだのかは分かりませんが、三年の時の奈良・京都よりもずっと思い出深く残っています。

松江は宍道湖畔で風光明媚、茶道のさかんな土地柄、和菓子屋も多く、比較的平らかな町なので自転車で回りやすい所です。又、「怪談」で有名な小泉八雲がこの土地の高校教師をしたことをご存知の方も多いのではないのでしょうか。

観光ルートには八雲記念館、八雲旧居、武家屋敷があり、私は和菓子屋と出雲そばと組み合わせて走り回るのが忙しかったのです。特に観光の中心は国宝にもなっている松江城です。

城は少し小高い丘の上、明治時代の廃城により売却後に取り壊されましたが、天守閣だけは出雲の豪農が国から百八十円で買い取り、取り壊しを免れ、平成に入り付近を整備することにより、ようやく国宝指定を受けられた、それは松江市民の悲願だったと、後で乗った堀めぐりの船頭さんは感慨深く語っていました。



実際に国宝になるかならぬかで観光収入に大きな差があるそうです。

天守閣からは宍道湖を見渡せて良いのですが、江戸時代そのままの天守は階段がとても急で、こんな所を殿様や侍たちは良くも上り下りしたものだと思いました。
(私は手すりにしがみつきながら！)

国宝か否かは別として、町のどこからも城を見上げられ、堀との景色の美しさはしつとりとして心静まる良い所です。その城下町にあるのが松江教会で、隣に暁の星幼稚園もあります。



教会の創建は明治二十三年、今の聖堂は昭和三十八年建築ですがモダンなデザインです。



待降節に入り、馬小屋の準備もされていましたが、平日の昼間で無人、隣の幼稚園の子供の声だけを聞きながら、静かにお祈り出来ました。

お祈りの後は、是非堀めぐりの船に乗ってください。私が行った時はこたつもついていて、暖かい船で船頭さんの面白い解説付きで一時間があったと言っ間でした。

低い橋をくぐるときは、船のテント屋根が下がってくるので、私達もこたつの高さまで縮こまります。

